

○北国生活、それぞれの科学⑳ 薬用植物園への誘い

姉帯正樹，南 収

しゃりばり，278，66-67（2005）

約 3000 平方メートルの敷地に約 750 種の植物を有する当所薬用植物園及び温室の設立の目的，代表的な薬用植物，実施した調査研究ならびにそこで開催される山菜講習会，薬草観察会などを紹介し，その利用を勧めた。

○北国生活、それぞれの科学㉑ 電磁界と健康

横山裕之

しゃりばり，279，60-61（2005）

様々な分野で利用されている家電製品は，人々の生活を便利で快適なものにしているが，近年，電磁界が持つ生体影響について懸念する声も大きくなってきた。その紹介と当所での取り組みを述べた。

○北国生活、それぞれの科学㉒ 魚介類に残留する環境汚染物質

長南隆夫

しゃりばり，280，56-57（2005）

魚介類に残留する環境汚染物質（有機塩素系農薬，PCB 及び有機スズ化合物）について解説し，さらに道内で流通する魚介類・水産加工食品を対象としたこれらの残留実態調査の結果についても紹介した。

○北国生活、それぞれの科学㉓ スズメバチに刺されないために

高橋健一

しゃりばり，281，54-55（2005）

北海道に生息するスズメバチの種類と生活史，都市環境にハチが侵出している現状や人が襲われる原因，ハチアレルギーなどについて解説した。また，ハチに刺されないために気を付けるべき事柄について紹介した。

○北国生活、それぞれの科学㉔ 環境ホルモン問題の現状とこれから

小島弘幸

しゃりばり，282，50-51（2005）

環境中に存在し生体のホルモン作用をかく乱する化学物質「環境ホルモン」について解説し，それらが野生生物に引き起こした事例や今後の研究課題を，環境化学物質が原因とされる最近の疾患とともに紹介した。

○北国生活、それぞれの科学㉕ 北海道と大麻草

藤本 啓

しゃりばり，283，58-59（2005）

大麻草の成分とその有害性，北海道における繊維作物としての栽培の歴史，海外等での有効利用例や最近の動向について簡単に解説し紹介した。

○北国生活、それぞれの科学㉖ 食品に残留する農薬

新山和人

しゃりばり，284，76-77（2005）

現在消費者が高い関心を持つ食品中の残留農薬について解説した。農薬の定義，使用の歴史から，最近の話題として，ポジティブリスト制の導入，農薬分析法などについて述べ，併せて研究内容の一部を紹介した。

○北国生活、それぞれの科学㉗ E 型肝炎ウイルスはどこから？

石田勢津子

しゃりばり，285，76-77（2005）

3 年ほど前から国内の患者数増加がみられる E 型肝炎の，症状と診断法，全国における集団感染事例とその原因と疑われる食品について述べ，感染源を追求する調査，研究を紹介した。

○北国生活、それぞれの科学㉘ エキノコックス症の検査診断法と道立衛生研究所

澤田幸治

しゃりばり, 286, 56-57 (2005)

北海道にみられるエキノкокスの野生キツネや野ネズミとの関わりとヒトへの感染, 住民検診としてのスクリーニングの効果や当所が取り組んできた血清診断法と遺伝子診断法の改良・開発について解説した。

○北国生活, それぞれの科学③⑦ 浮遊(飛散)アスベスト

神 和夫

しゃりばり, 287, 76-77 (2006)

社会的に注目を集めているアスベスト問題について, アスベストの特性, 関連のある疾患, 対策, 及び浮遊アスベストの測定方法を解説した。また, ナノ粒子の安全性の検討が重要であることを述べた。

○北国生活, それぞれの科学③⑧ 食物アレルギーについて

林 隆章

しゃりばり, 288, 60-61 (2006)

食物アレルギーの原因食品に関する説明, アレルギー原因食品の包装への表示について, 及びアレルギー原因食品の検査に関する当所での取り組みについて紹介した。

○北国生活, それぞれの科学③⑨ 新生児スクリーニングについて

市原 侃

しゃりばり, 289, 54-55 (2006)

先天性代謝異常等に対する新生児スクリーニングについて, 目的や意義, 歴史, 当所での 1977 年から 2002 年末まで約 100 万人についての取り組みとその実施成果, 経済効果, 今後の課題等を概説した。

## 企画総務部

○保健文化賞を受賞して

本間 寛

第一生命保険相互会社編, 保健衛生の向上を願って—第 57 回保健文化賞受賞者の業績—, 第一生命保険相互会社, 東京, 2006, pp.1-11

北海道立衛生研究所として第 6 回に続く 2 度目の保健文化賞の受賞理由となった業績の概要—エキノкокクス症血清診断法の開発と住民検診の確立, 遺伝子診断, JICA 事業に参画した国際貢献等—を紹介した。

○「動物由来感染症(特にウエストナイル熱)に関する意見交換会」報告(前編)

米川雅一, 後藤明子, 神 和夫, 澤田幸治, 本間 寛

北海道獣医師会雑誌, 49, 469-473 (2005)

本道の標記感染症対策に資するため, 2005 年 9 月 13 日, 微生物学, 動物学, 昆虫学をはじめ公衆衛生, 家畜衛生行政の専門家・担当者による意見交換会を北海道立衛生研究所で開催した。本著はその報告の前編である。

○「動物由来感染症(特にウエストナイル熱)に関する意見交換会」報告(後編)

米川雅一, 後藤明子, 神 和夫, 澤田幸治, 本間 寛

北海道獣医師会雑誌, 50, 25-28 (2006)

本編では標記感染症対策への厚生労働省, 北海道保健福祉部・環境生活部・農政部, 北海道立衛生研究所, 札幌市保健福祉部, 北海道 PCO 協会, 北海道獣医師会, 厚生労働省小樽検疫所等の取り組み状況を報告した。

○金属成分: ヒ素

神 和夫

日本分析化学会北海道支部編, 水の分析 第 5 版, 化学同人, 京都, 2005, pp.240-246

環境水に含まれるヒ素のジエチルジチオカルバミン酸銀法及び水素化ヒ素分離—原子吸光法による定量方法について示した。